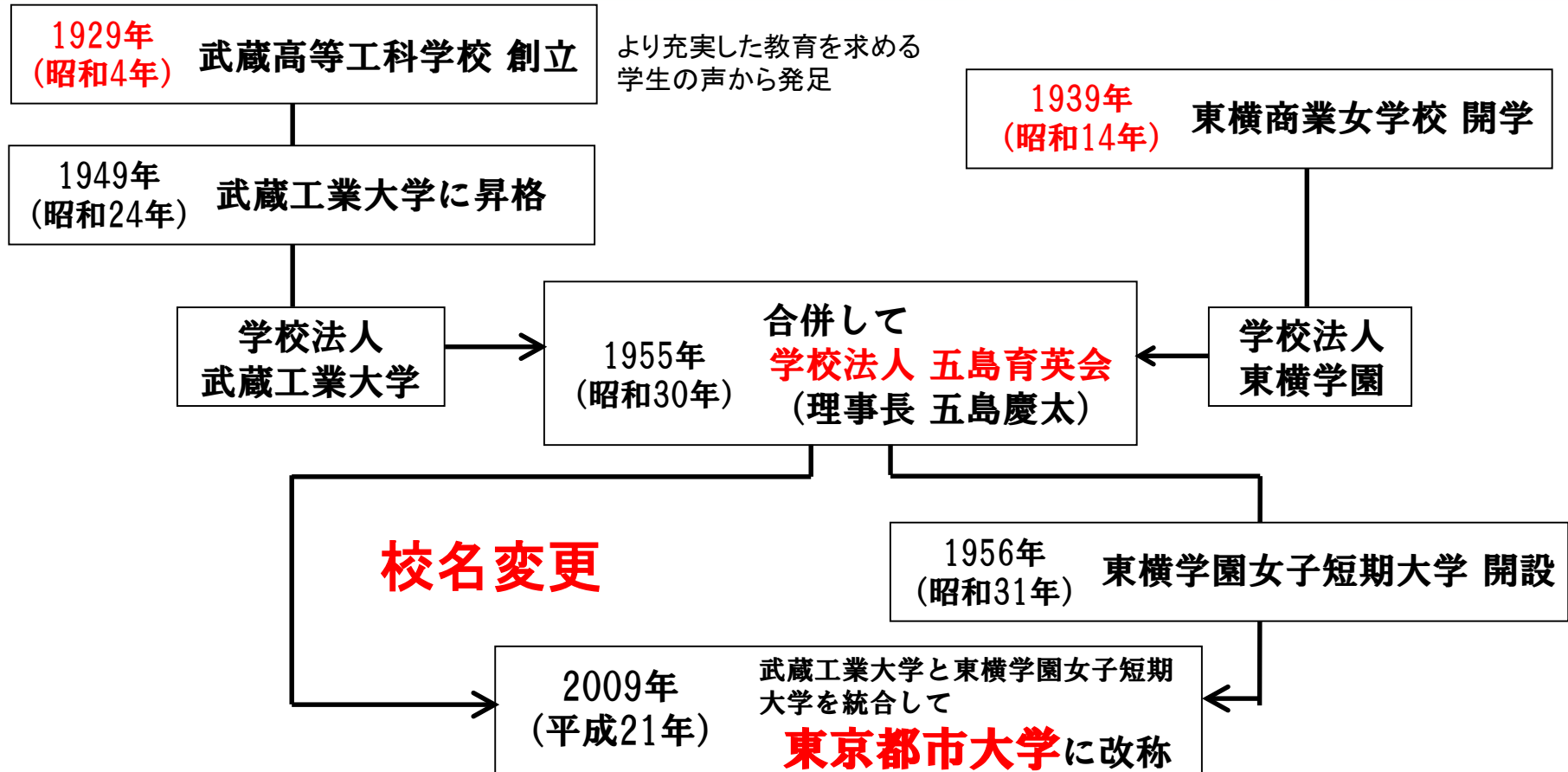


東京都市大学の事例紹介

東京都市大学 学生支援部
住田 暁弘



武蔵工業大学から「東京都市大学」へ



(都市大グループ: 高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園)



学部・研究科 構成

(7学部17学科・2研究科)
<3キャンパス(世田谷・等々力・横浜)>

理工学部

- 機械工学科
- 機械システム工学科
- 電気電子通信工学科
- 医用工学科
- 応用化学科
- 原子力安全工学科
- 自然科学科

建築都市デザイン学部

- 建築学科
- 都市工学科

都市生活学部

- 都市生活学科

情報工学部

- 情報科学科
- 知能情報工学科

人間科学部

- 児童学科

環境学部

- 環境創生学科
- 環境マネジメント学科

メディア情報学部

- 社会メディア学科
- 情報システム学科

学生数 7,667名
大学 6,928名
大学院 739名
(2021年5月1日現在)

総合理工学研究科

環境情報学研究科

本日のご説明

APへの取り組み

Acceleration Program for University Education Rebuilding

(プレ)ディプロマサプリメントについて

TCU-FORCE システムの概要

大学職員が果たす役割



輩出すべき人材の要件検討

育成したいと
考えていた人材像

企業・社会からの
人材要請

都市大卒業生
からの評価

(1) やらないといけないことをやり続けて身につけた
「**努力できる確かな自信**」を感じさせる

(2) 最終成果につながるまで、**考え、行動し続ける**

(3) 自分ができることや希望を臆せず正しくアピールし、
チーム貢献ポジションを自らつくることができる

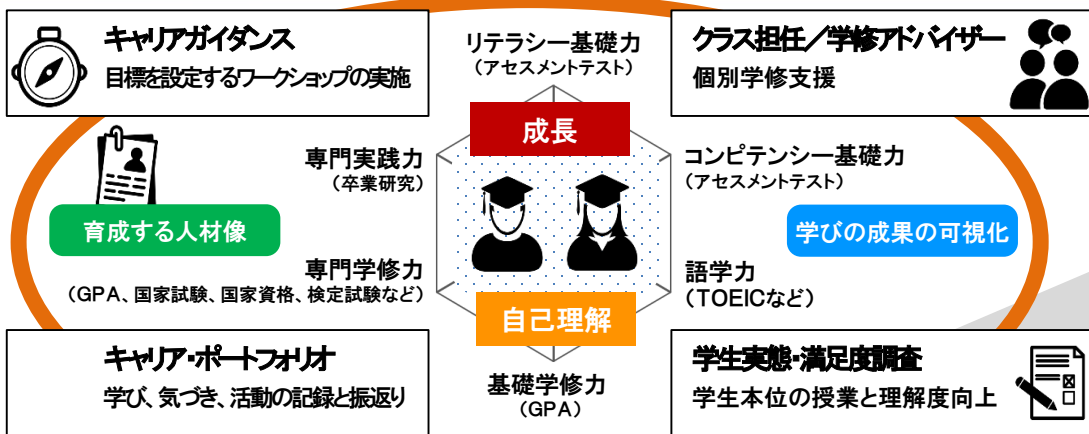
(4) 得た知識やスキルを既存の枠組みで活用するだけでなく、
自分たちで**新たな枠組みを作り上げようとする**

(5) **国際的に通用する**

これまでも輩出
してきた人材。
これをより多数
に！

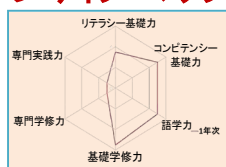
AP事業の取り
組みによって、
都市大生に新
たなカラーを加
えていく！

本学のAP事業全体像



プレ・ディプロマサプリメントにより、学修の習熟度を教員と学生が共有し、学生のキャリア形成と学修プログラムに生かす体制を整備

プレ・ディプロマサプリメント



卒業時 ディプロマサプリメント

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

<定性情報>

- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 学位の情報
- ✓ 履修履歴 / 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報

<学修成果に関する定量情報>

卒業時

学生のキャリア形成と、社会で必要とされる能力の獲得

卒業生調査

活動実態の把握
結果の分析と教育改善

就職先等

ディプロマサプリメントの活用
人材ニーズ調査の実施と分析

外部評価

企業、官公庁、研究機関、
他大学教員、卒業生、
高校関係者等で構成

【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間(1週間当たり)	4.2時間	10時間	20時間	20時間
卒業生追跡調査の実施率(調査回答者数/卒業者数)	未実施	20%	25%	30%
学生の成績評価(GPAの平均)	2.35	2.40	2.50	2.75



◆ 卒業までの過程でどれだけの力を身につけたかを学生と教職員が客観的に把握・評価でき、さらにその成果を目に見える形で社会に示し、共有していくことが可能になる。

◆ ディプロマサプリメントの開発と活用を通じて、専門性の高い多様な学部で実践的に学ぶ学生と支援する教職員との連携体制を構築し、多くの大学に導入可能な連携モデルとして広く波及させることができる。

卒業時に発行するディプロマサプリメント(サンプル)

<卒業時>

※細部検討中

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

DIPLOMA SUPPLEMENT ディプロマ・サプリメント

どうきょうたろう
東京 太郎

性別 男
生年月日 1997年11月3日
学籍番号 1612000
学部 工学部
学科 機械システム工学科
学年 4年生
入学年度 2016年度

専門実践力

専門学修力



※表示は2点刻み(満点は10点)

教育課程の特色

- ・本学の機械システム工学科は、従来の機械工学に対し、電気工学および情報工学を融合したリベラルな構成です。
- ・科目は動機・意欲・興味・計画・学習に着眼しています。
- ・各科目の授業内容を精選するために、学修到達科目、材料工学、機械工学、電気電子工学、制御工学、プログラミング開発科目を必修としています。

代表的な科目

1. 該専攻に関する科目
2. 基礎学修力に関する科目
3. 専門実践力に関する科目(知能シミュレーション体験型学習コンピテータの実験によってシミュレーションするプログラム開発等。)
4. 専門実践力に関する科目(機械システム設計実習の1-2回目を題材に、学生自身がプロジェクトを出発し、実習を通して、意欲増進、導入、実践プログラミングを学びます。
(機械の実習・授業やオンライン、個別相談といった代表的な学習機会を効果的に活用して、学習意欲に関する意欲・知識を身に付けます。)

学修成果

1. リテラシー基礎力

POINT

8.6 /10pt

大学で修得した学修成果、研究世界を広く社会、さらに世界に開き、働きかける準備ができています。また、積極的に社会に貢献する姿勢をもたらし、自ら課題を発見し、解決する力を身につけています。

2. コンピテンシー基礎力

POINT

8.6 /10pt

大きくは「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」の3つの要素から構成されています。人と自分にベストな状態をもたらす力を身につけています。

3. 語学力

POINT

7.0 /10pt

国際的視野に立つ幅広い教養と専門性を身につけた上で、それらを的確に表現、伝達し理解を得るためのコミュニケーション能力を身に付けています。また、この能力を駆使して必要の協力を得るとともに、協働して活動できる力を身につけています。

4. 基礎学修力

POINT

7.1 /10pt

大学での学びに必要な学修に取り組み動機と基礎的な知識を身につけるとともに、自ら学ぶための姿勢を持っています。また、大学での学びに必要な学修の方法と基礎知識の活用方法を身に付けています。

5. 専門学修力

POINT

8.3 /10pt

基礎的な教養を十分に修得した上で、各分野における高度で専門的な知識を習得し理解しています。また自身の専門分野の研究をより深めることにより、自ら課題を発見し、解決する力を身につけています。

6. 専門実践力

POINT

7.0 /10pt

大学で修得した学修成果、研究成果を広く社会、さらに世界に開き、働きかける準備ができています。また、積極的に社会に貢献する姿勢をもたらし、自ら課題を発見し、解決する力を身につけています。

この学生はディプロマ・サプリメントの発行日において、学修成果として上記の能力を身に付けています。
画面の1. 定性情報については、本人の自己申告に基づいて大学が確認した内容を掲載しています。

20XX年3月19日
東京都市大学
学長 ○○ ○○ 印

1. 定量情報

リテラシー基礎力 <900 (リテラシー)> 8.6/10pt

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	PR00 (リテラシー)	4.5	6.7
2017	2	2017.S.1	PR00 (リテラシー)	6.0	6.4
2018	3	2018.S.1	PR00 (リテラシー)	6.0	6.9
2019	4	2019.S.1	PR00 (リテラシー)	6.0	6.9

2. 定量情報

コンピテンシー基礎力 <900 (コンピテンシー)> 8.6/10pt

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	PR00 (コンピテンシー)	4.5	6.7
2017	2	2017.S.1	PR00 (コンピテンシー)	6.0	6.4
2018	3	2018.S.1	PR00 (コンピテンシー)	6.0	6.9
2019	4	2019.S.1	PR00 (コンピテンシー)	6.0	6.9

3. 定量情報

語学力 <900 (語学)> 7.0/10pt

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	0-HEL1	3.0	4.7
2017	2	2017.S.1	0-HEL1	3.0	5.3
2018	3	2018.S.1	0-HEL1	3.0	5.9
2019	4	2019.S.1	0-HEL1	3.0	5.9

4. 定量情報

基礎学修力 <900 (基礎学修)> 7.1/10pt

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	0	0.0	0.4
2017	2	2017.S.1	0	0.0	4.8
2018	3	2018.S.1	0	0.0	6.7
2019	4	2019.S.1	0	0.0	6.9

5. 定量情報

専門学修力 <900 (専門学修)> 8.3/10pt

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	0	0.0	0.4
2017	2	2017.S.1	0	0.0	4.8
2018	3	2018.S.1	0	0.0	6.7
2019	4	2019.S.1	0	0.0	6.9

II. 定性情報

年度	学期	科目名	単位数	取得率	取得率(4年次)
2016	1	2016.S.1	2016.S.1	0.0	0.4
2017	2	2017.S.1	2017.S.1	0.0	4.8
2018	3	2018.S.1	2018.S.1	0.0	6.7
2019	4	2019.S.1	2019.S.1	0.0	6.9

プレ・ディプロマサプリメント

プレ・ディプロマサプリメント

ディプロマサプリメント

<定性情報>

1年次

- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 履修履歴 ✓ 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報など

<定性情報>

2年次

- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 履修履歴 ✓ 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報など

<定性情報>

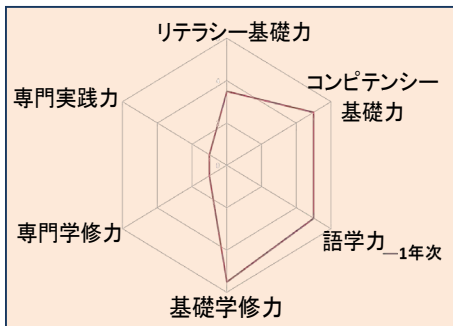
3年次

- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 履修履歴 ✓ 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報など

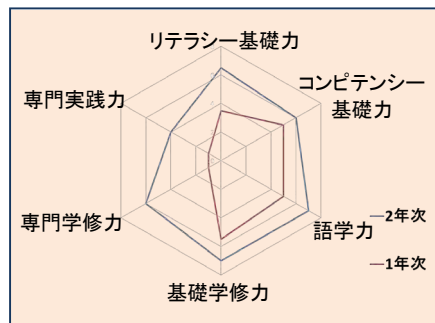
<定性情報>

- ✓ **学位の情報**
- ✓ 学生に関する情報
- ✓ 履修履歴 ✓ 課外活動履歴
- ✓ 取得した資格に関する情報など

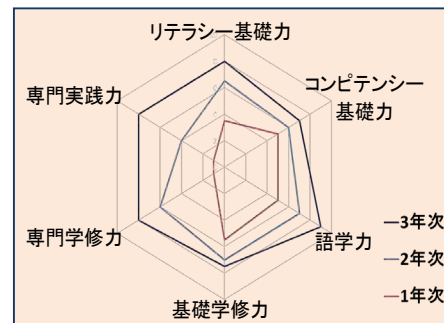
<定量情報>



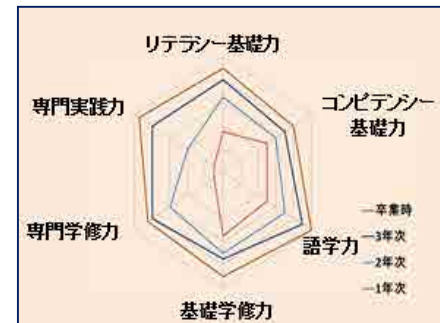
<定量情報>



<定量情報>



<定量情報>



1年次



2年次



3年次



卒業時

TCU-FORCEシステムとは

学生が正課授業や正課外などの活動で培った経験を登録していくことで、学生が持つ様々な力を可視化し、教職員がサポートを行いながら、**学生の主体的な学修**の習慣化を促すオリジナルのシステム

「FORCE」 = **FOR** Career **E**nrollment

※ 昨今、入学前から、在学中、卒業後までを一貫してサポートする総合的な学生支援策「**Enrollment Management**」が注目されている。



「キャリア開発のフレーム」

① 自分を知る

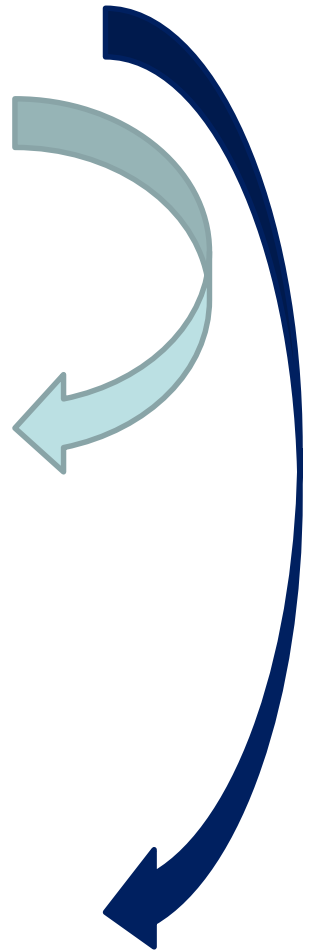
客観的・主観的側面

② 社会を知る

仕事研究・環境理解

③ 自分を磨く

学生生活を充実



TCU-FORCEシステムの機能

1年次からその都度、各学生自身の情報を
確認し、成長度合いを認識できる

- ①レーダーチャートによる**定量**情報の表示
- ②承認されたアピールポイントの**定性**情報の表示
- ③キャリアガイダンスで目標設定⇒振り返り⇒再目標設定
＜PDCAを習慣化＞
- ④キャリアポートフォリオ機能で日々の活動を記録

※④キャリアポートフォリオ機能のみ学生本人だけが閲覧可能、①～③の機能は教職員も閲覧可能

TCU-FORCEシステム概要一覧表

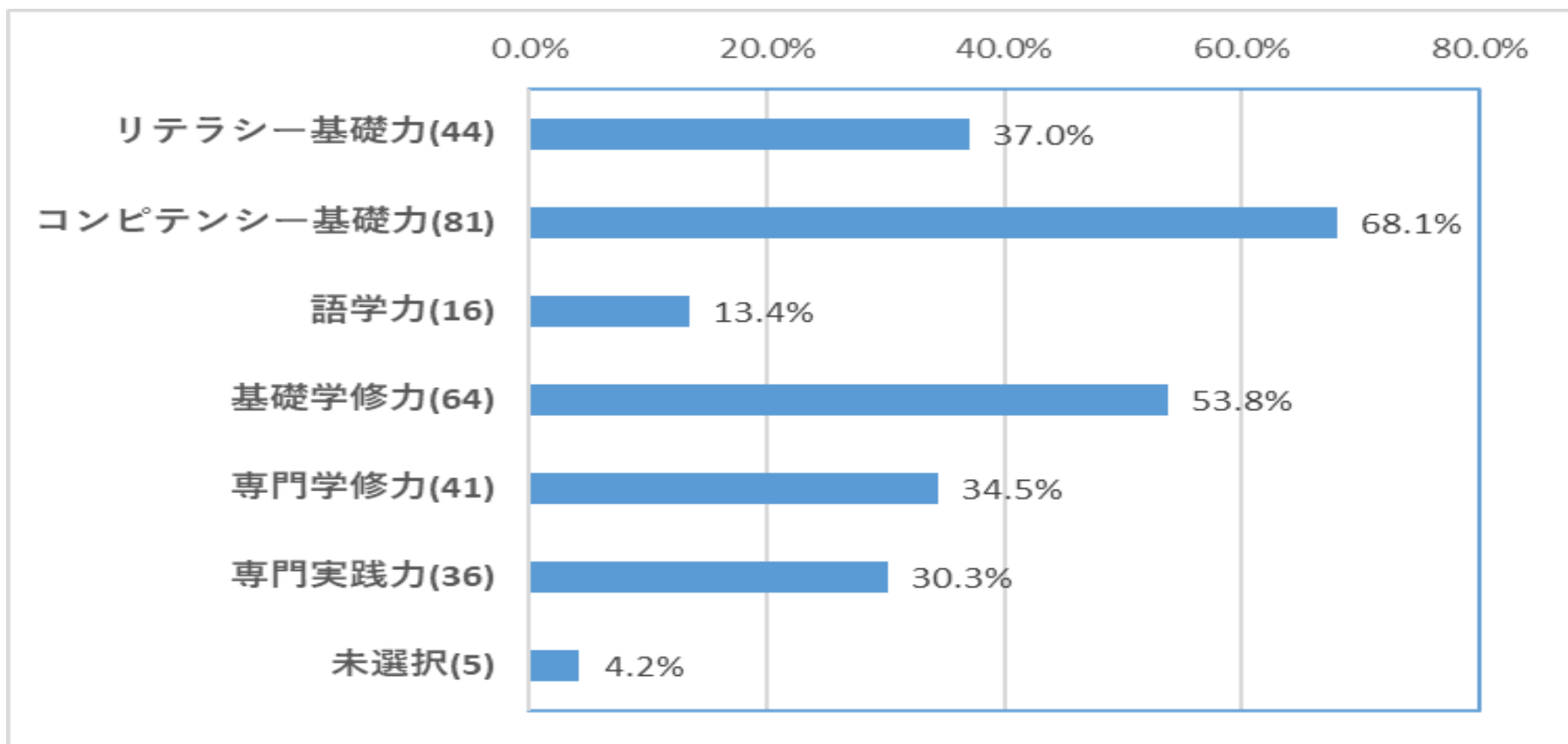
区分	レーダーチャート表示	ユニット	教員への承認依頼	評価項目	レーダーチャート配分率	入力方法	レーダーチャートポイント換算	備考
グラフ内訳	①リテラシー基礎力	PROG(リテラシー)	×	PROG(リテラシー)結果	100%	CSV一括投入	PROG結果に基づきポイント換算	新1年生分4月下旬データ提供予定 2年生以上は運用開始前に過去分一括登録
	②コンピテンシー基礎力	PROG(コンピテンシー)	×	PROG(コンピテンシー)結果	100%	CSV一括投入	PROG結果に基づきポイント換算	
	③語学力	語学系授業GP積算値	×	語学系授業GP積算値	40%	基幹システム連携	語学系授業GP積算値に基づきポイント換算	
		語学系試験	△ 学生手入力のみ承認依頼あり	G-TELP	40%	学生手入力	語学系試験得点に基づきポイント換算	・英語クラス分けのための試験が、H30年度より、G-TELPからTOEIC-IP試験に変更。よってTOEIC-IP試験結果をCSV一括登録対象とする。 ・TOEIC-IP試験の得点は国際部で把握している ・2年生以上の学生が、過去に受験したG-TELP試験結果をCSV一括登録する。
				TOEIC		学生手入力		
				TOEIC-IP		CSV一括投入		
				TOEFL (iBT)		学生手入力		
				TOEFL (CBT)		学生手入力		
	TOEFL (PBT)			学生手入力				
	IELTS	学生手入力						
国際交流体験	○	海外での国際交流体験(3か月以上)	20%	学生手入力	10点	・複数の活動実績があった場合でも総計で10点を超えない。		
		海外での国際交流体験(3か月未満)			5点			
④基礎学修力	基礎学修力系GP積算値	×	基礎学修力授業GP積算値	100%	基幹システム連携	基礎学修力授業GP積算値に基づきポイント換算		
⑤専門学修力	専門学修力系GP積算値	×	専門学修力授業GP積算値	100%	基幹システム連携	専門学修力授業GP積算値に基づきポイント換算		
⑥専門実践力	卒業研究	×	卒業研究	20%	基幹システム連携	卒業研究の評価に基づきポイント換算		
	専門実践力系GP積算値	×	専門実践力授業GP積算値	60%	基幹システム連携	専門実践力授業GP積算値に基づきポイント換算		
	研究活動	○	研究活動(学会発表・実習など)	20%	学生手入力	5点	・複数の活動実績があった場合でも総計で10点を超えない。 ・学科ごとに評価項目一覧を別配付可	
アピール項目	—	アピール項目	○	アピール項目(ボランティア・課外活動・アルバイトなど)	—	学生手入力	—	
ガイダンス	—	目標・省察	×		—	学生手入力	—	
活動記録(日々)	—	日々の活動記録(非公開)	×		—	学生手入力	—	

能力指標の定義

No	能力指標	能力の定義
①	リテラシー基礎力 PROGのリテラシー	「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」の4つの要素から構成される、学んだ知識を活用して問題を解決する力を身につけている。また、学び・研究活動のベースとなる、正解のない問題に対して解決に向け、論理的に考える力を身につけている。
②	コンピテンシー基礎力 PROGのコンピテンシー	大きくは「対人基礎力」「対自己基礎力」「対課題基礎力」の3つの要素から構成される、人と自分にベストな状態をもたらす力を身につけている。
③	語学力 語学科目GP積算 語学系外部試験 国際交流体験	国際的視野に立つ幅広い教養と専門性を身につけた上で、それらを的確に表現、伝達し理解を得るためのコミュニケーション能力を身につけている。また、この能力を駆使して必要な協力を得るとともに、協働して活動できる力を身につけている。
④	基礎学修力 選定した科目のGP積算	大学での学びに必要な学修に取り組む態度と基礎的な素養を持っているとともに、自ら学ぶための意欲を持っている。また、大学での学びに必要な学修の方法と基礎的知識の活用方法を身につけている。
⑤	専門学修力 選定した科目のGP積算	基礎的な素養を十分に理解した上で、各分野における高度で専門的な知識を理解し修得している。また、自らの専門分野の研究をより深めることにより、自ら課題を発見し、解決する力を身につけている。
⑥	専門実践力 卒業研究GP 選定した科目のGP積算 研究活動	大学で修得した学修成果、研究成果を広く社会、さらには世界に問い、働きかける準備ができています。また、積極的に社会に貢献する姿勢を持ち、社会での実践により、さらに学修、研究の質を高めていく力を身につけている。

企業が重視する6つの力の項目

本学が示す6つの力で重視する項目はありますか？



・調査期間:平成30年8月10日～8月31日
・回答社数:119社
・調査対象:平成29年度3月に実施した「求める人材・大学教育ニーズ実態調査」
回答のあった243社の人事担当者へ郵送、並びに本学を訪問された人事担当者

正課教育とそれを補う支援スケジュール

	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業	
ガイダンス	①キャリアガイダンス ②キャリアガイダンス	③キャリアガイダンス ④キャリアガイダンス インターンシップ成果報告会	①進路ガイダンス インターンシップガイダンス ②進路ガイダンス インターンシップ成果報告会 ③進路ガイダンス	企業提出用 プレディプロマサプリメント	ディプロマサプリメント 卒業時発行用	
授業・セミナー	正課教育の授業、SD-PBL、事例研究、卒業研究など			就職セミナー		
企業研究会				企業研究会 3年次3月～		
その他	適性検査 検査活用セミナー	学修サポート・キャリア相談			適性検査	既卒者支援

学科の担当教員への依頼

学生が自己理解を深め、成長に向けて主体的・自律的に活動することを支援する、身近な存在としての役割

- ex.)
- ・学問・専門の立場からだけでなく、社会で働く先輩として、学生がPDCAをうまく回していくための、気づきやヒントを与えるアドバイザー
 - ・努力や成長を認め、褒め励まし、時に失敗や挫折に共感し、勇気づける、学生から見て頼りになる存在

★具体的にお願いしたいこと

- ① 「TCU-FORCE」での**学生の学修活動の承認やコメント記入**による日常的な応援・アドバイス

※学科として、各学生の承認担当は誰が行うかを決定。担当教員に学生からの承認依頼が来た場合には教員用画面のアイコンとメールでお知らせ

- ② 「TCU-FORCE」などを活用した**個人面談**による学修支援

キャリアコンサルタント資格保有職員の支援

TCU-FORCEの日々の活用を促進する目的で、学科の担当教員による対応に加えて、キャリア支援センターの資源を有効に活用する。

現在、キャリア支援センターには**キャリアコンサルタント**
国家資格を保有するスタッフが13名在籍しており、
キャリアカウンセラーによる**低学年からの個別面談**など
を通じたキャリア開発支援を試行的に実施。



大学職員が果たす役割

事務、サポート業務担当者 としての役割から
企画・マネジメント業務担当者 への変化
求められる学び続ける能力

例)

■ AP事業を事務局職員がプロジェクトとして運営

■ 入試・広報業務の運営

■ 研究連携推進業務

■ 国際関連業務

■ ICT推進業務

■ IR(Institutional Research)業務

■ キャリア開発プログラム作成・運営

・インターンシップ、ビジネスプランコンテスト など



私のキャリア(大学職員)

参考資料

■職歴

- 1987年～2005年 大手情報企業にて
人事・総務、進学情報事業、新卒就職情報事業GM、キャリア開発事業ユニットGM、
キャリアカウンセラー養成事業GM、再就職支援事業GMなどを経験
- 2005年～2010年 キャリア・人材コンサルタント業を開業
- ・ 複数の企業とコンサルタント、アドバイザー契約
 - ・ 県立宮城大学 キャリア開発論 非常勤講師
 - ・ 東京大学 キャリアサポートセンターアドバイザー 等
- 2010年～2011年 教育コンサルタント企業 執行役員 兼 同企業の総合研究所 副所長
- 2011年～ 東京都市大学 入職
学生支援部部長、教育開発機構室員、ダイバーシティ推進室員

■主なキャリア関連資格

- ・ 国家資格2級キャリアコンサルティング技能士 2010年2月
- ・ 日本産業カウンセラー協会認定 産業カウンセラー 2009年3月
- ・ 米国CCE, inc.認定 G-CDFキャリアカウンセラー 2001年5月

■現在の主なキャリア関連 所属学会・社会活動など

- ・ 日本キャリアデザイン学会 正会員
- ・ 初年次教育学会 正会員
- ・ 日本工学教育協会 正会員
- ・ 日本私立大学団体連合会 就職問題委員会 委員
- ・ 日本私立大学協会 キャリア・就職支援委員会 副委員長
- ・ 日本学生支援機構 キャリア教育・就職支援事業協力者
- ・ 大学職業指導研究会 幹事役員
- ・ 経団連と大学による採用と大学教育の未来に関する産学協議会 採用・インターンシップ分科会 委員
- ・ 世田谷プラットフォーム キャリア部会 部会長